

被災地にピラミッド出現？

懸念される人工的な景観

南三陸から気仙沼、陸前高田、大船渡へと、津波による甚大な被害のあった地域を車で走る。かつての生活道路は至る所で寸断され、震災後に迂回路がつけられた。当然のことながら、カーナビにはない道だ。したがって、ナビはしばしば沈黙。道が描かれていない地図上を、ナビの矢印が不

安げに移動する。途中、頻繁に大型ダンブカーとすれ違った。いずれも「震災復興車両」という幕をボディのフロントにつけている。山を削って出土を平野部に運搬するダンブカーだ。運ばれた先で荷台から落とされた大量の土は、ブルドーザーで丹念にならされ、高さ10メートル



南三陸町のさんさん商店街

を越す巨大なピラミッド型の土の塊を形成する。津波に襲われた旧市街地を盛り土によってかさ上げし、新たな街をつくらうという復興計画。いま、その計画を推進するための試験盛り土が、被災地に次々と出現している。地盤沈下や地崩れを懸念する住民の声

縦横に走る巨大コンベヤー

一本松茶屋でアイス試食

「奇跡の一本松」駐車場内に新設された観光物産施設「一本松茶屋」でソフトクリームを食べる。片道800メートルの「奇跡の一本松」まで往復した後だけに、冷たくてうまい。

陸前高田市の巨大ベルトコンベヤーの構築はテレビ報道などで見たことがあるが、現場に立つと、やはり異様な光景に映る。途中で幾重にも分岐しながら、対岸の山を切り崩し、盛り土用の土砂を運ぶ。総延長は3キロ。

も聞かれる中、見渡す限りの平地に、頭の部分が平坦なピラミッドが続々と築かれていくのだ。多数のピラミッドは、果たして住民の命を守ることになるのかどうか…。その成否はさておき、極めて人工的な景観の街ができて上がることは否めない。(久貝)

「奇跡の一本松」駐車場内に新設された観光物産施設「一本松茶屋」でソフトクリームを食べる。片道800メートルの「奇跡の一本松」まで往復した後だけに、冷たくてうまい。

陸前高田市の巨大ベルトコンベヤーの構築はテレビ報道などで見たことがあるが、現場に立つと、やはり異様な光景に映る。途中で幾重にも分岐しながら、対岸の山を切り崩し、盛り土用の土砂を運ぶ。総延長は3キロ。



陸前高田市の土砂運搬用のベルトコンベヤー



気仙沼市の「海の市」で開かれたサンマ祭り

盛り土で固めた特設の「見晴台」に上ると、ベルトコンベヤー越しに「奇跡の一本松」が見えた。太陽に照らされ銀色に光るコンベヤーは更地になった旧市街地の中を、まるで大蛇がのたうつように走り回っている。トラックによる土砂

初日の待ち合わせ場所では、東京駅新幹線21番ホーム、午前8時発「やまびこ175号」4号車付近。ホームを歩いていくと、前方に八幡さん、原さんの姿が見える。「2人とも、ずいぶん早く到着したのね」と思いながら近寄っていくと、八幡さんの姿が消えた。「あれっ？」と、思った。さらに数歩進むと、続いて原さんの姿も…。1人消え、2人消え、どこへ行ってしまったのか？ 2人が立っていたはずの乗車口まで行くと、なんと2人とも目の前の車見つけるのが1分でも遅れていたら、2人はどこへ行ってしまったことやら…。介護係としては、前途多難を予感し、覚悟せざるを得ない旅の幕開けだった。(久貝)